



No.5

平成18.10.1発行

墨田区男女共同参画情報誌

特集 | メディアが描く 女性像・男性像



墨田区男女共同参画社会情報誌『にじ』は女性も男性も共に輝く社会へのかけはしになることを願って名付けられました。

CONTENTS

巻頭インタビュー
香山リカさん 2P

特集
メディアが描く女性像、男性像 4P

区民レポート
情報を発信する私たち 6P

インフォメーション 8P

墨田さんちの男女共同参画物語
おじいちゃん、
介護のボランティア始める 10P

私らしく輝いて
小浦敏春さん 12P

香山リカさん

精神科医

精神科医として、現代人の心の病を見つめてきた香山リカさん。時事問題からサブカルチャーまで、幅広いテーマを論じるエッセイスト・コメンテーターとしても活躍されています。そんな香山さんが、現代ならではの悩みを抱える人たちに、もっと楽に生きるためのメッセージを贈ります。



働きざかりの女性たちは、
主ごとのようなことで
悩んでいるのでしょうか？

一般的な傾向として、30〜40代の女性性は、真面目で向上心が強く、目標に向けて努力することをいとわない人が多いと思います。それはすばらしいことなのですが、ときとして自分を追いつめてしまうことになりかねません。

20代のうちは、仕事をがんばれば自らが向上していることを実感でき、周囲からも認められるので、やりがいを感じられます。しかし30代になると、それだけでは満足できなくなってきました。向上心が強い女性たちは、常に自己実現を果たせるものを求めがちです。自己実現ができていないという実感がないと、「自分の生き方には何か足りない」と感じ、「もっとがんばらなくては」「もっと向上しなくては」と自らを追い込んでしまうことがあるのです。

男性は、ほかのことが多少うまくいなくても、仕事で自己実現できていれば、おおかた満足できる人が多いものです。しかし女性の場合は、「がんばった末に管理職になれた」とかという前例が少なく、職場での自分の将来像を描きにくいのです。だから、単純に仕事だけで満足できないのでしょう。

独身の人なら、結婚に満足感を求める

自分を楽にしてあげるとは、何もかもがんばらうと思わないことが大切です

こともあります。結婚すればありのままの自分を認めてもらえるから、今の生活への不満や不安が一扫されるのではないかと考えるのです。

では、既婚女性は満たされていると実感しているのでしょうか？

家庭生活は、がんばったからといって給料や肩書きのような具体的な成果が出るものではありません。そのため、専業主婦の人が自己実現の欲求を満たすのは、仕事をしている人より難しいといえるでしょう。また、家庭を持つことでたとえば夫に対する不満など、新たな悩みが生じてくるものです。だから、結婚すれば悩みが解消するとは限らず、「こんなことなら、一人で仕事をがんばっていたほうがよかった」と言う人も少なくないのです。

では、家庭も仕事も持っている人はどうかといつと、どちらも理想どおりにさせないことに不満を感じていることが多いものです。どちらにも多くの時間をさけないのは当然なのですが、真面目で自分に厳しい彼女たちは、何もかも完璧

にやることを自分に求めてしまう傾向にあるようです。結局、結婚していても仕事をしても、「何か足りない」と感じてしまうのです。

人生に自己実現を求めるのは、間違いだとは思いませんが、ないものねだりになってしまつては、何をやっても満たされないのではないのでしょうか。

香山さんご自身は、自分の生き方に悩んだことはありませんか？

私は、これまで強い意志も理想もなく、ずっと流れのままに生きてきました。そもそも、医学部に入ったのは行きたい学部の受験に失敗したからで、医師になりたかったわけではないのです。入学したものの、やりたい専攻もとくになかったので、一番体力的に無理のなさそうな精神科を選びました。

つまり、「与えられた選択肢の中で自分にできること」という非常に現実的な理由で進路を選んできたのです。これが最善の選択かどうかはわかりませんが、今も精神科医という仕事を続けているので、あながち向いていなくはないのです。

よう。それで十分だと思っています。

だからいつか、自分の生き方に満足できずに悩んでいる人の話を聞いて、「そんなに理想を持っていてすごいなあ」と驚いてしまいます(笑)。でも、それほど自分への要求水準を高くしなければ、「もっと楽に生きられるのに……」と思わずにいられません。

自分を追いつめず、もっと楽に生きるためにはどうしたらよいのでしょうか？

すべてががんばらうと思わずに、何かを「あきらめる」ことが大切だと思います。「あきらめる」といつと後ろ向きイメージで、悪いことのように思われるかもしれせん。しかし、物理的に無理なことを追い求めて、ずっと満たされない気持ちを抱えて生きるのは、もったいないと思います。それよりも、思い切って何かをあきらめることで、自分を楽にしてあげましょう。

たとえば、「私は趣味を楽しみたいから残業はしない。そのために出世はできないかもしれないけれど、まあいいや」「今は趣味も仕事もがんばりたいから

結婚までは無理。でも、それなりに自分らしく過ごしているから、まあいいや」などというふうに、自分の中でバランスをとり、無理にすべてこなそうとしないことです。今、できていないことを数えるのではなく、できていることに目を向けることが大切です。そうすれば、「あれもできていない」「これもダメだ」と自分を責めたいですむでしょう。これが、楽に生きるためのコツです。

最近、男性も仕事一筋ではない人が増えていて、自分の生き方に悩んでいるようです。男女に限らず、何かを「あきらめる」「生き方をおすすめしたい」と思います。

プロフィール かやま・りか

1960年生まれ。東京医科大学卒。精神科医・帝塚山大学教授。臨床経験を生かし、新聞・雑誌・テレビなどで社会批評、文化批評、書評などを手がける。専門は精神病理学だが、サブカルチャーへの造詣の深さでも知られる。著書「サヨナラ、あきらめきれない症候群」「老後がこわい」など多数。



メディアが描く女性像、男性像

メディアが発達した現代、新聞、雑誌、テレビのほか、インターネットという新しいメディアも加わり、あふれるような情報の中で暮らしています。

私たちはつい何気なく受け止めてしまいがちですが、これらは発信者によって選びとられ、表現され、送られてくる情報です。

ちよつと目線を変えてみると、偏った表現が多くあることに気づきます。例えば「男性はこうあるもの」、「女性はこうあるもの」といった性別役割分業を固定化するものや、男性の視点でつくられたものなどです。

こうした情報をいつも見ていると、違和感を感じなくなってしまうこともあります。

大切なことは、情報をうのみにせず、自分自身の目で考えること。その情報がどんな仕組みで発信されたものなのかを読み解き、偏りや欠けている点はなにかをチェックしてみることです。

こうした力を身につけることを『メディア・リテラシー』といいます。まずは、メディアが描く女性像、男性像について、ウォッチしてみましょう。

メディアを読み解くための

3つの視点

3 情報の受け取り方は人によって違う

視聴者や読者など、受け取る側も、自分の経験や価値観に基づいて情報を読みとっているため、受け取り方は人によって様々である。

2 メディアも産業の一つ

メディアの中には、企業が情報をつくり、流通させ、販売しているものもある。売り上げのために誇張した表現や偏った表現があることを意識する。

1 メディアは現実を100%伝えるものではない

メディアはあくまで発信者によって一定の価値観のもとに選びとられ、編集（構成）されたものであることが多い。





メディア・ウォッチ

週刊モーニング連載『クッキングパパ』

共働きで家事・育児を日常的にこなす会社員男性を主人公にした作品。男性の視点から描かれることが多い青年誌の中にも、性別役割分業にとらわれない作品が増えている。



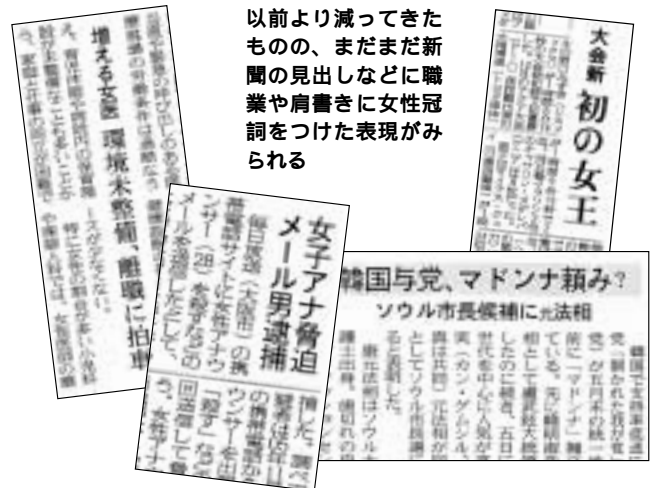
©うえやまとち / 講談社

マンガ・絵本編

古典的な作品では、主人公の多くは強くて勇気のある男の子で、女の子はあくまで脇役でおしとやかな性格の設定が多くみられてきました。しかし、最近では、マンガ、絵本とも女の子を主人公とした作品がずいぶん増えてきました。これまでの男女の役割を固定化したものが減り、料理の好きな男の子、悪者と戦う女の子など、さまざまなタイプの女の子像、男の子像が登場しています。

テレビ・新聞編

新聞やテレビ報道では、女性の職業や肩書きを言う際に、「女子アナ」や「女性社長」などの女性冠詞をつけた表現がみられます。また、スポーツ紙や一部のバラエティ番組では、女性を性の対象として描くものが目立ちます。しかし、その一方で、介護や育児などを男女が共に担うものとする報道、ホームドラマで家事をする男性など、女性の役割、男性の役割を固定的にとらえた表現は減ってきています。



以前より減ってきたものの、まだまだ新聞の見出しなどに職業や肩書きに女性冠詞をつけた表現がみられる

最近の性別役割分業によらない広告例

生命保険CM

仕事の合い間をぬって母親が息子の野球の試合に走って駆けつける、という設定で、働く女性の姿が自然に描かれている。

洗濯用洗剤CM

女性が出てくることが多い洗濯用洗剤のCMの中で、男性が主役となって話題を呼んだ。

広告編

ほかのメディア同様、広告の表現も変わってきました。かつて女性が多かった洗剤のCMに男性が起用されたり、働く男性の象徴である栄養剤のCMに女性が登場するなど、性別役割分業意識によらない広告が増えてきました。しかし、その一方で、女性の水着姿など、まだまだ性的魅力を広告に起用したものも多くみられます。

情報を発信する私たち

さまざまなメディアから受ける影響は、受け取る側の意識により変わります。一方、メディアを発信する側は、どのような意識を持っているのでしょうか。墨田区を拠点に情報を発信する立場のお二人に伺いました。



新聞記者
赤坂葉子さん

記事を書くときには、性別を固定化する肩書きを付けないように心がけています

東都よみうり新聞社に入社し2年余になります。今年5月から産休に入り、現在は育児休業中です。

東都よみうり新聞は、墨田区、江東区、葛飾区、江戸川区、港区の下町4区に地元ならではのニュースをお届けする地域密着型の新聞です。私は、主に商店街のお店や人を取材して紹介する記事を担当していました。私が記事を書くときに気を付けていることは、性別を固定化する肩書きを無意識に付けないようにすることです。私自身が休業中のため、とくに気になるのかもしれませんが

が、「主婦」という肩書きに対して違和感を感じる時があります。いま職業に就いていない既婚女性の中にも、何らかの形で社会と関わっている人や職業を求めている人など、さまざまな人がいるはずで、そういう人たちを「主婦」という言葉でひとまとめにすると、本意に感じる人もいると思うのです。他に適当な呼称があればいいのですが……。

ひと昔前の新聞には、性別を限定する職業名(看護師、スチュワーデスなど)が書かれていたようですが、現在では、性別に関係ない呼称(看護師、キャビン

アテンダントなど)に変えています。また、「女性なのに珍しい」という取り上げ方自体も少なくなってきました。それだけ、女性がさまざまな職業に就くことが当たり前になってきているのでしよう。

新聞業界でも、女性の記者が増え、男性と同じように活躍できる環境にあります。

ただ、私の職場では、たまたまこれまで産休・育児をとる人がいなかったため、正直、難しいのではないかと思っています。しかし、幸いなことに上司や同僚の協力と理解を得て、初の取得者となることができました。

これからは、母親としての視点で物事を見るようになっていくと思います。復帰後は、それを仕事に生かしていくことが楽しみです。



プロフィール/フェリス女子学院大学文学部教授。専門はマス・コミュニケーション学、社会学、女性学。著書は「ジェンダーとジャーナリズムのはざま」(季節の変わり目 融解する若者とメディア) (批評社)、「ジェンダーの語られ方、メディアのつくられ方」(現代書館)他多数。

メディアには常に距離を置いて接することが大切です

諸橋 泰樹氏

残念ながら、日本のメディアは、性別に関する表現に対して意識が高いとはいえないものが多いと思います。さすがに最近の新聞には、「女医」「女性議員」などという女性冠詞は少なくなりましたが、性別役割分担を固定的に扱う表現はよくあります。またテレビでは、外部の制作スタッフやタレントなど多くの人が関わるだけに、さらに意識が浸透していないことを感じます。

今年6月から7月にかけて、女性が近所の児童や自分の子を殺害した事件が大きく報道されました。その際、多くのマスコミは容疑者を姓(苗字)ではなく名で呼称しました。このことに違和感を感じた人は、どれくらいいるでしょうか。容疑者が男性なら、一人前の大人を下の名だけで呼ぶことはないでしょう。また、事件と関係のないプライベートな部分をことさらに取り上げることもないのではないのでしょうか。このように、女性を一段下の存在とみる意識が表れているように思えます。

メディアがいったん報道してしまうと、多くの人がそれを当たり前のように感じてしまいがちです。それ



町会広報担当
田口武司さん

地域の人たちの顔が見える
メディアとして、町会のホ
ームページを作っています

京一旭町会の広報担当として、3年前から町会広報紙「旭だより」の発行を始め、1年前にホームページを立ち上げました。以来、3人の仲間とともに、町内の人たちに向けて身近な情報を発信しています。

昨年まで勤務していた会社でパソコンを使い慣れていたこともあり、ホームページの作成作業は私が担当しています。ホームページには、主に行事のお知らせや行事のときの写真などを掲載しています。

写真は、子どもの顔がはつきりとわからないように、わざとぼやかせたり、大勢で写っているものにするのを心がけています。

私も他のメンバーも、地域の子ども会やPTAなどに役員として関わっていたので、「子どもの安全を守ろう」という意識が人一倍強いのです。「旭だより」発行当初から、みんなで相

談するまでもなく、当然のように子どもが写っている写真の扱いには気をつけていました。どのようなことに悪用されるかわからない時代なので、たとえ町会の広報という小さなメディアでも、そういう配慮が必要だと思っています。

ほかには、女性も男性も、大人も子どもも同じように、「さん」と「さん付け」

で表記することを意識しています。また、なるべく性別により順序をつけることのないようにしています。よそのメディアを見ると、当たり前のように男性を先に、女性を後に書いていることがあります。ですが、おかしなものだと思えます。

墨田区では、町会のホームページ作成にあたり補助金が出るの



京一旭町会・広報担当のみなさん

で、多くの町会がホームページを立ち上げています。京一旭町会のホームページを見て立ち上げを決めたところもあると聞き、うれしく思っています。また、他の町会の担当者も、共同で新たな情報ネットワークをつくることも考えています。このように、相互につながりあえるのがインターネットというメディアのよさでしょう。

は、性別や年齢、国籍などによって人を差別することにつながりかねません。ですから、私たち一人ひとりが、情報をうのみにしないで、「これはおかしいのでは？」と気づくことが大切なのです。そのために必要なのは、常に批判的な目を持ってメディアと接することです。

たとえば、ある事件の犯人として疑惑の人物が浮かびあがったとき、マスコミがこぞってその人が犯人だという論調の報道をすることがあります。それらを見ていると、絶対その人が犯人だという気がしてくるものです。しかし翌日、その人への疑惑が晴れると、マスコミは一斉に報道の調子を変えます。そういったとき、

ここで注意してほしいのは、メディアが発信する情報は、すべて事実だとは限らないということです。時間に追われ、売上が至上の命題であるメディアは、ある側面だけを取り上げて、脚色します。情報をうのみにしないためには、メディアの仕組みを知り、常に批判的な視点で、距離を置いて接することが必要です。

メディアがどう構成されているかは、自分の日常と比較してみるとわかります。「女の人って、こんな人ばかりじゃない」「子どもはこんなこと言わない」というように、自分の周囲と照らし合わせ、自分自身で「本当にそうだろうか？」と考えることが大切です。

そして、「おかしい」と思ったことは、メディアの作り手に伝えてみましょう。メディアを作る側からすれば、視聴者や読者の声以上に影響力があるものはありません。ですから、ぜひ電話をかけたリメールをしたりして、メディアにあなただけの声を届けてください。そういう一人ひとりの意識が、少しずつでもメディアを変えるきっかけとなり、社会全体が変わることにつながるのです。

シンポジウムを実施します

墨田区では、男女共同参画社会の実現をめざし、区民等で構成する「墨田区男女共同参画推進委員会」と共催でシンポジウムを実施します。

〔日 時〕平成18年10月28日(土) 午後1時～4時

〔場 所〕すみだりバーサイドホール

第1部「あらゆる分野における男女共同参画について」

講師 猪口 邦子氏(衆議院議員)

男女共同参画社会の実現のための国の取り組みと、職場や地域、家庭、学校等、社会の中で必要な考え方や行動について、その方向性をお話しいたします。



猪口 邦子氏

第2部 シンポジウム「男性も女性も子育ての喜びをわかちあうために」

～職場・地域・家庭の取り組み～
そして私の取り組み

コーディネーター 渡辺委員

登壇委員 市川委員、中島委員、長野委員、矢吹委員、中島苦情調整委員

手話通訳・一時保育あります。

〔申込み〕自治振興・女性課男女共同参画推進担当

(5608)6512

苦情調整機関を設置しました

苦情調整機関とは、区内で起きた男女共同参画社会の形成を妨げる事柄について、区民等からの苦情を受け付ける機関です。

また、区では、「墨田区男女共同参画苦情調整委員会」を設置し、苦情の申出を適切かつ迅速に処理します。

申出ができること

- ・「女だから、男だから」と差別的な扱いをされた
- ・職場内で、セクシュアル・ハラスメントを受けた
- ・区の広報・出版物において、性別による役割を固定化する表現があった
- ・区の施策に関する苦情 など

まずは事務局へお問い合わせください。

〔事務局〕自治振興・女性課男女共同参画推進担当

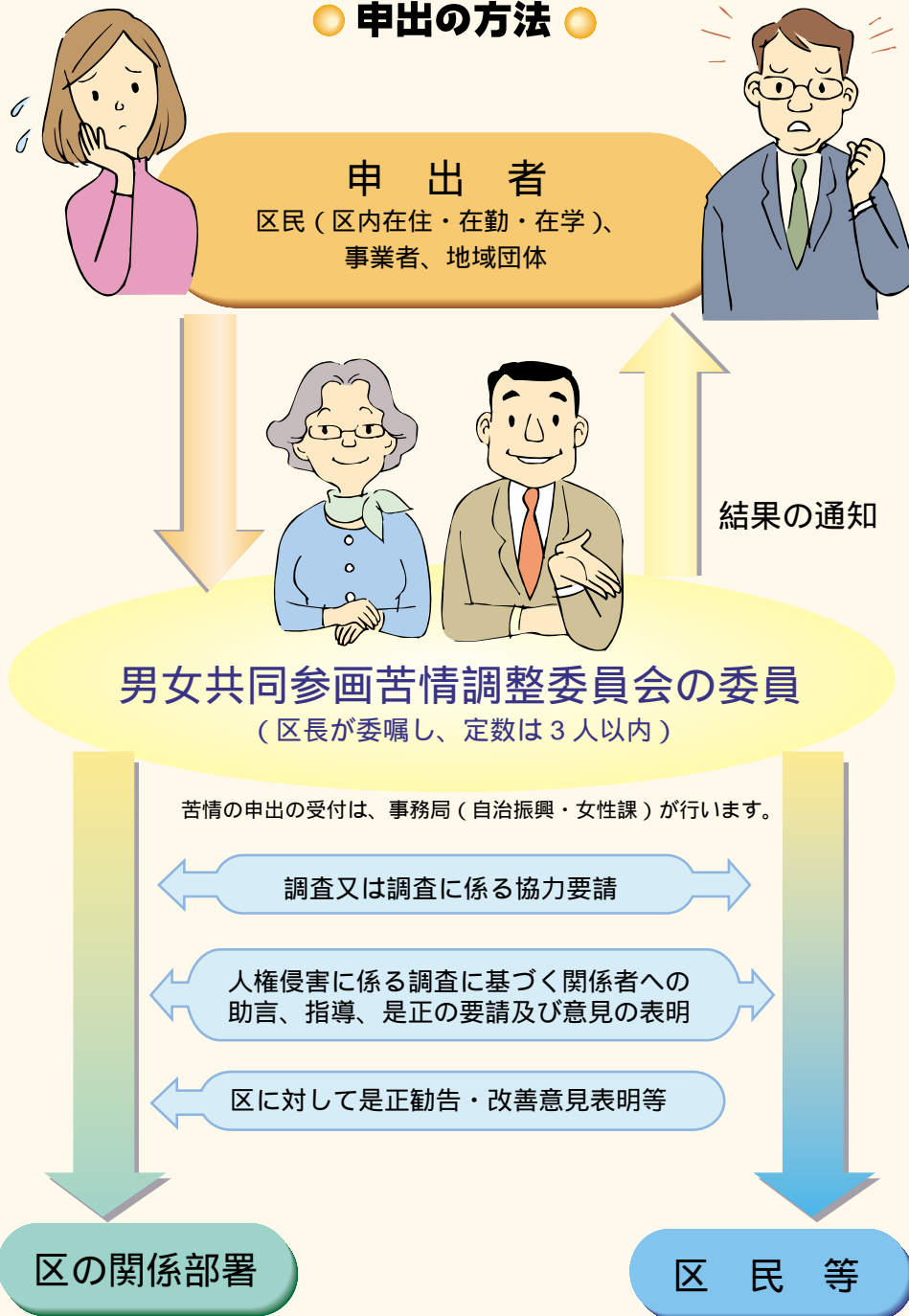
〒130-8640

墨田区吾妻橋1-23-20

(5608)6512

Eメール JCHSHINKOU@city.sumida.lg.jp

● 申出の方法 ●



すみだ女性センターからお知らせ

ご参加ください

すずかけ共催事業

すみだ録音グループ「声」第二回朗読会
 演目：源氏物語、藤沢周平、昔の仲間、他

〔日 時〕平成18年12月2日（土）

午後1時から

講座委員会企画講座

楽しく正しく食べよう 食育レッスン
 & キッズクッキング

小学生以上のお子さんと保護者の方
 でご参加ください。食育レッスンは大
 人の方のみでもご参加いただけます。

〔日 時〕平成18年11月18日（土）

午後1時半から

働く女性の支援講座

「パワーアップ！私のライフプラン」

女性の視点で頑張り過ぎない資産運
 用について、第一線で活躍中の講師に
 基礎知識から学びます。

〔日 時〕平成18年11月11日（土）・25日（土）

午後1時半から

〔申込み〕すみだ女性センター

墨田区押上2-12-7-111

(5608)1771

DV相談窓口

被害を受けて悩んでいる方はまず「
 相談ください。」（相談先下表のとおり）

緊急時は警察へ110番「DVの被
 害を受けている」と通報してください。

その他のお知らせ

墨東病院女性専用外来の
ご利用を

女性専用外来とは、女性と男性との
 身体の仕組みの違いや、生活様式・社
 会的役割の違いを考慮し、女性特有の
 疾患やそのライフスタイルによって生
 じてくる様々な健康上の問題に対して、
 より積極的に取り組む新しい診療スタ
 イルです。

女性の健康に関するお悩みなどの相
 談を受け付けています。ぜひご利用く
 ださい。

〔申込み〕完全予約制

予約センター

(3633)5511

予約受付時間 月～土曜日
 午前8時半～午後5時（翌
 日分の外来受付は午後2時
 まで）

「女性専用外来の予約」と
 お申し出ください。

マザーズハローワーク東京

子育て中の女性をはじめ、すべての
 女性の就職を支援する「マザーズハロ
 ーワーク東京」が渋谷区にオープンし
 ました。就職を希望するすべての女性
 を対象に、職業相談・職業紹介・就職
 支援のセミナー等、就職支援サービ
 スを行っています。

特に、子育てをしながら就職を希望
 する女性については、専任のカウンセ
 ラーによる一貫した職業相談・助言を
 行い、就職の実現を図ることとしてい
 ます。

お気軽にご相談ください。

支援内容の特徴

- ・専任制（予約制）による個別的就
 職支援
- ・お子様連れもOK（チャイルドコ
 ーナー・授乳室が設けられ、子ど
 もを遊ばせながら求人検索が出来
 ます）

すべての女性の就職を応援します

〔利用時間〕月～金曜日 午前10時～

午後7時

土曜日 午前10時～午後

5時

日曜・祝日はお休みで
 す。

〔問合せ〕マザーズハローワーク東京

(3409)8609

HP <http://www.hw-shibuya.go.jp/mothers.html>

若者の就職を応援します

墨田区では、より多くの若者が若い
 人材を求め事業所に就職できるよう
 に支援を行います。就職活動のノウハ
 ウなどを学べるセミナーやビジネスマ
 ナーの習得、コミュニケーション能力
 の向上をめざすスクール形式の研修会
 の実施、また区内事業所数社を見学し、
 経営者や若手従業員の話を聞く企業見
 学会も行っていきます。

若者就職サポートコーナー

「自分に向いている仕事かわからな
 い」などの就職に関するご相談を専門
 の相談員（キャリアアドバイザー）が
 お受けしています。

相談日時 毎週月・水・金曜日

午後1時～5時（予約制）

相談場所 墨田区役所14階

11月から1階に移ります。

費用 無料

〔申込み〕若者就職サポートコーナー

(5608)6834

〔問合せ〕生活経済課消費者・勤労福祉

担当

(5608)6182



墨田さんちの

男女共同

だんじょ
きょうどう

さんかく
ものがたり

参画物語

墨田さん一家は会社員のお父さん、パートで働くお母さん、高校生のさくら、中学生の太郎とおじいちゃん、おばあちゃんの6人が一つ屋根の下で暮らす、にぎやか3世代家族。いつも話題が絶えません。さて、今回はどんな話が飛び出すのでしょうか……。

の巻

おじいちゃん、介護のボランティア始める

さくら おじいちゃん、どうしたの？ 日曜日なのにエプロンなんかしちゃって……。

祖父 前から登録しておいた介護ボランティアに行ってきたんじゃないよ。

祖母 お疲れ様でした。で、どうでした？ 初仕事は。

祖父 いやあ、いくつになっても人の役に立つ仕事をするというのは、気持ちがいいものだよ。

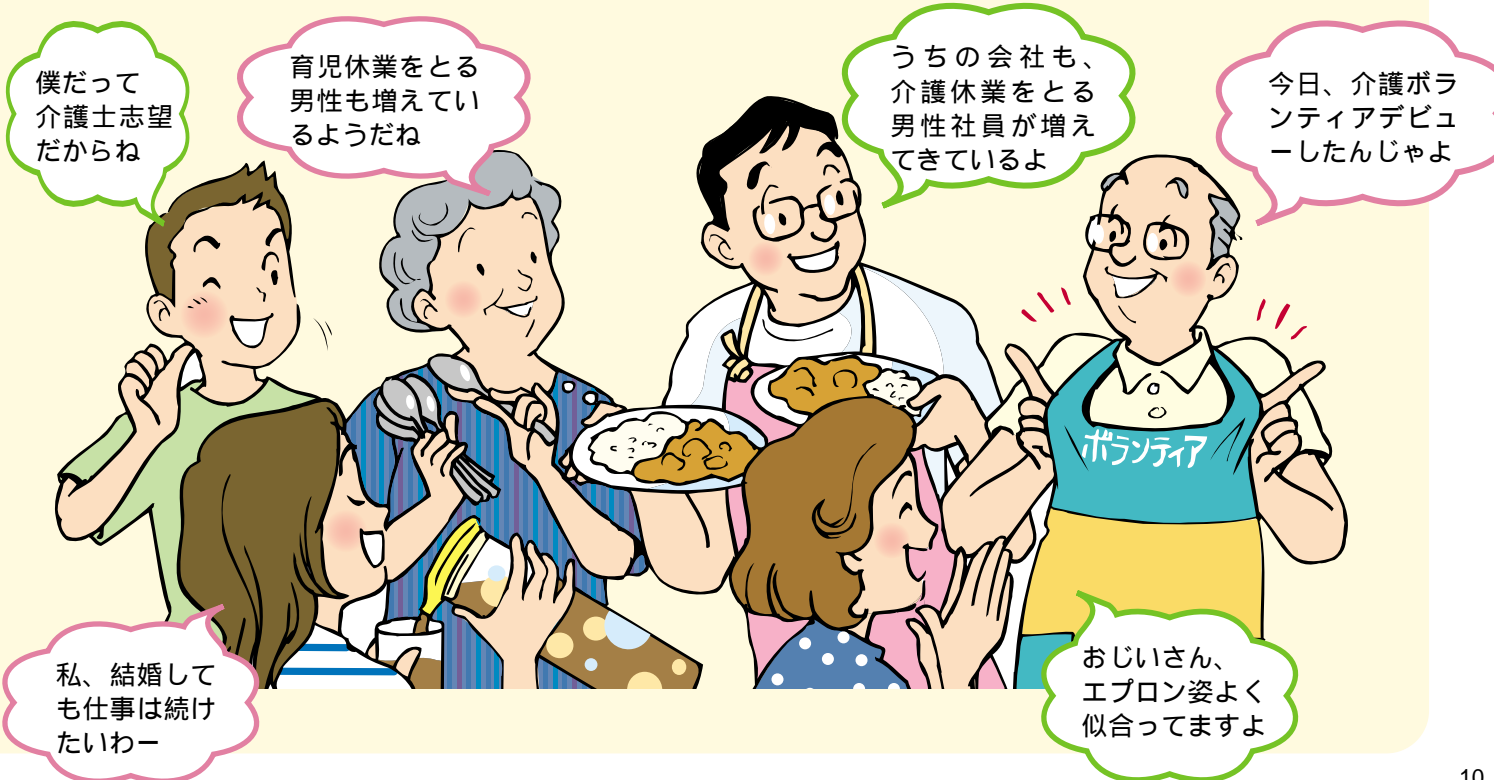
太郎 ねえ、おじいちゃん、どんなお手伝いをしてきたの？

さくら そうそう、太郎は介護士志望だから、聞いておきたいわよね。

祖父 そうだったな。おじいちゃんがやっているのは、車イスがないと移動できない方をデイケアセンターまで連れて行ってあげる仕事なんじゃよ。

太郎 へえー、介護の仕事といっても、いろいろあるんだね。

祖母 かつては介護というと、家族だけでやるのが当



男女共同参画社会への キーワード

▶いくつになっても

いくつになっても働きたいという人が増えています。厚生労働省の調査によると、仕事に就いていない165歳～69歳のうち、働きたいと希望している男性は4割以上、女性は2割以上となっています（平成18年版「高齢社会白書」より）。改正「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」では、定年の引き上げや再就職支援などの促進がうたわれていますが、高齢者の意欲や希望に応じて多様な雇用形態を整えるなど、高齢者がこれまで培ってきた貴重な技術やノウハウを生かすシステムが望まれます。

▶介護休業を取る男性

介護保険制度の導入を機に、介護は家族だけで担うものという考え方は薄れつつあります。しかし、その一方で、まだまだ家族の中心となって介護を担っているのは女性です。介護休業を取る男性が増えているとはいえ、平成14年度「女性雇用管理基本調査」によると、介護休業取得者の約7割は女性です。

▶育児休業中のお父さん

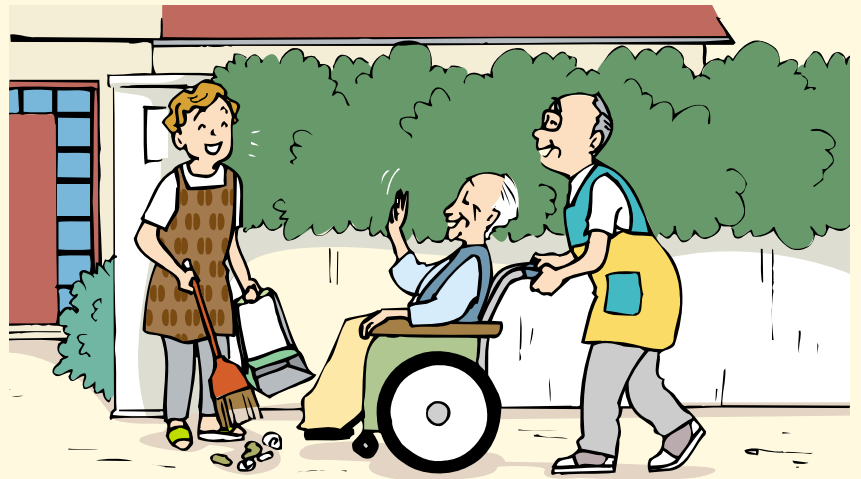
若い世代を中心に、育児休業を取る男性も増えてきました。とはいえ、社会全体からみればごく少数で、2004年度の取得率は、女性70.6%に対し、男性はわずか0.56%に過ぎません（平成18年版「高齢社会白書」より）。

▶子育てのために仕事を辞める女性

女性の社会進出が進んでいるとはいえ、多くの場合、子育てを機に仕事を中断する女性はまだまだ多いようです。女性の労働力率を年齢別にみると、子育て期にあたる30代前半が最も低くなっています。一方、男性は、就職してから退職する（50代）までのどの年代においても労働力率はさほど変わりません。

▶少子化

少子化が進むなか、合計特殊出生率（一人の女性が生涯の間に生む子どもの数）も過去最低を更新し続けています。2004年の1.29からさらに下がり、2005年は1.25となりました。



たり前だったけれど、いまはさまざまなサービスを利用できるようになったからね。

父 社会全体で支えるという考えが広まったせいか、お父さんの会社でも**介護休業を取る男性社員**が出てきているね。

祖母 昔と違って、子育てにも積極的にかわる男の人が増えているんじゃないのかね。おばあちゃんがやっている子育て支援の利用者に、**育児休業中のお父さん**がいるんだよ。

さくら 私、将来結婚するなら、そういう男性がいいなあ。

太郎 あれっ、おねえちゃん、結婚したくないんじゃないの？

父 おいおい、さくら、そつなのか？

さくら あつ、でも、仕事が続けられるなら、結婚もしたいし、子どももほしいと思ってる。

母 さくらが迷うのも無理ないわ。現実には、結婚や**子育てのために仕事を辞める女性**がまだまだいるんだから……。

父 今の若い人にとって、仕事と家庭の両立は大きな課題だな。

祖父 子育ても社会全体で担っていくようにしなければ、ますます**少子化**が進んでしまうじゃろつ。

母 おつしやる通りですね。

太郎 その点、我が家は安心だね。いざとなれば、みんなの協力が得られるから……。

さくら そのためにはおじいちゃん、おばあちゃんにも元気でいてもらわないと……。

母 もう、二人とも気が早いんじゃないの。その前にもっとやることがあるでしょう。

父 そうだな。まずは勉強をがんばって、自分のやりたい仕事に就くこと。それが大事だな。

祖母 まあまあ、お説教はそれくらいにして、そろそろご飯にしましょうよ。

母 そうそう、今日はお父さんが作ったインドカレーよ。

祖父 ほう。やるじゃないか。

全員 では、いっただきまーす。

私らしく輝いて

地域活動には
お金では買えない
たくさんの人との
出会いがあります



スポーツドアあずま・広報
小浦 敏春さん



便 利になる一方で、運動不足になりがちな現代社会。そんななか、墨田区では昨年誰でも地域で気軽にスポーツやレクリエーションを楽しむことができる、総合型地域スポーツクラブ「スポーツドアあずま」を設立しました。

このスポーツクラブは、旧第五吾嬬小学校を拠点に、区民が中心となって企画・運営を行っています。

その一人が小浦敏春さん。仕事のかたわら、ボランティアで広報を担当しています。

「主な仕事はスポーツクラブの活動予定などを告知する会員向けの広報紙の発行です。設立から丸1年になりますが、おかげさまで630人を超える方々に加入していただき、各種大会などのイベントもだんだん充実してきました。また、自分も会員として毎週ソフトバレーを楽しんでいます。」

このほか、小浦さんは地区の子ども会の副会長としても活躍しています。

「このように色々な地域活動に参加するようになったのも、11年前にPTAの役員をやったことが始まりでした。地域に知り合いがいらないのを妻が心配して『やってみたら』と勧めてくれたのです。」

おかげで、それからは地域でのつながりがどんどん広がって

いきました。「スポーツドアあずま」の運営に関わるようになったのも子ども会会長からの誘いだったそうです。

「今では妻より私の方が地域で有名な人になってしまいましたね。もちろんこうした活動を続けるのは大変なことも多いですが、活動を通して得られる色々な人との出会いは、まさにお金では買えないものです。この1年間、スポーツクラブの活動を通して、会員や指導員の方など、新しい出会いがたくさんありました。」

これまで「地域とつながりを持ってこなかった」という人はまずは「スポーツドアあずま」に入会して、地域の人たちと一緒に体を動かすところから始めてみてはどうでしょうか？ 地域に居場所があるというのはいいものですよ。」



「スポーツドアあずま」のサークル協力種目のひとつ、八広太鼓サークル。元気に太鼓の練習をする子どもたち。